

大学院入試のオンライン事情 -電子情報学専攻の事例-

東京大学 大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻
相澤清晴

はじめに

- コロナ禍の2020、2021年実施の大学院入試で、オンラインの試験が多くの研究科、専攻で導入された。
- 本専攻の概略について述べる。
- 研究科共通のことは、研究科事務局・入試委員会・共通科目委員会が対応し、専攻は、専門試験を扱う。なお、同一研究科でも、専門試験のオンライン化の対応は同一ではない。

入試の一連のプロセス

入試は“試験”だけではない

入試の一連のプロセス

	B.C.(19実施)	W.C.(21実施)
学生	<ul style="list-style-type: none">• 会場• 郵送• 郵送• ー• 会場• 会場• 郵送、Web	<ul style="list-style-type: none">• オンライン• アップロード• ダウンロード• オンライン• 会場・オンライン• オンライン• Web
運営	<ul style="list-style-type: none">• 入試に関わる諸々の膨大な作業	

2年間の変化

1年目は、全体のプロセスの一部がオンライン化。

	2020実施
入試説明会	オンライン
願書提出	郵送、アップロード（補完）
受験票	郵送
書類選考	会議室
筆記試験	オンライン
口述試験	オンライン
合格発表	Web、郵送

2年間の変化

入試を支える部分は2年をかけて、デジタル化された。
ただし、筆記試験は、2年目は、ハイブリッドに。

	2020実施	2021実施
入試説明会	オンライン	オンライン
願書提出	郵送、アップロード（補完）	アップロード
受験票	郵送	ダウンロード
書類選考	会議室	オンライン
筆記試験	オンライン	会場、オンライン
口述試験	オンライン	オンライン
合格発表	Web、郵送	Web

オンライン筆記試験

オンライン筆記試験 (20、21年の状況)

- 20年は、COVID-19への警戒から、すべてオンラインで筆記試験を行った。
- 21年は、会場受験とオンライン受験を併用した。申請に応じてオンライン受験を受け付けた。会場受験の困難な留学生や遠隔地からの受験、COVID-19の心配からのオンライン受験へ対応。
- 試験直前まで、オンラインへの振り替えは受け付けた。

オンライン筆記試験にあたり

- 教員への説明
- 受験生へのリハーサルの実施
(20年は専攻単独で、21年は研究科共通科目で実施)
一連の手順の確認
- 受験生は、PC、スマホの用意。オンライン会議システム、3Mbps以上が安定的に確保できるネットワーク環境、個室を準備。
- 当日の試験実施にあたっては、本部を設けて、緊急への対応態勢。

オンライン筆記試験の一連の流れ

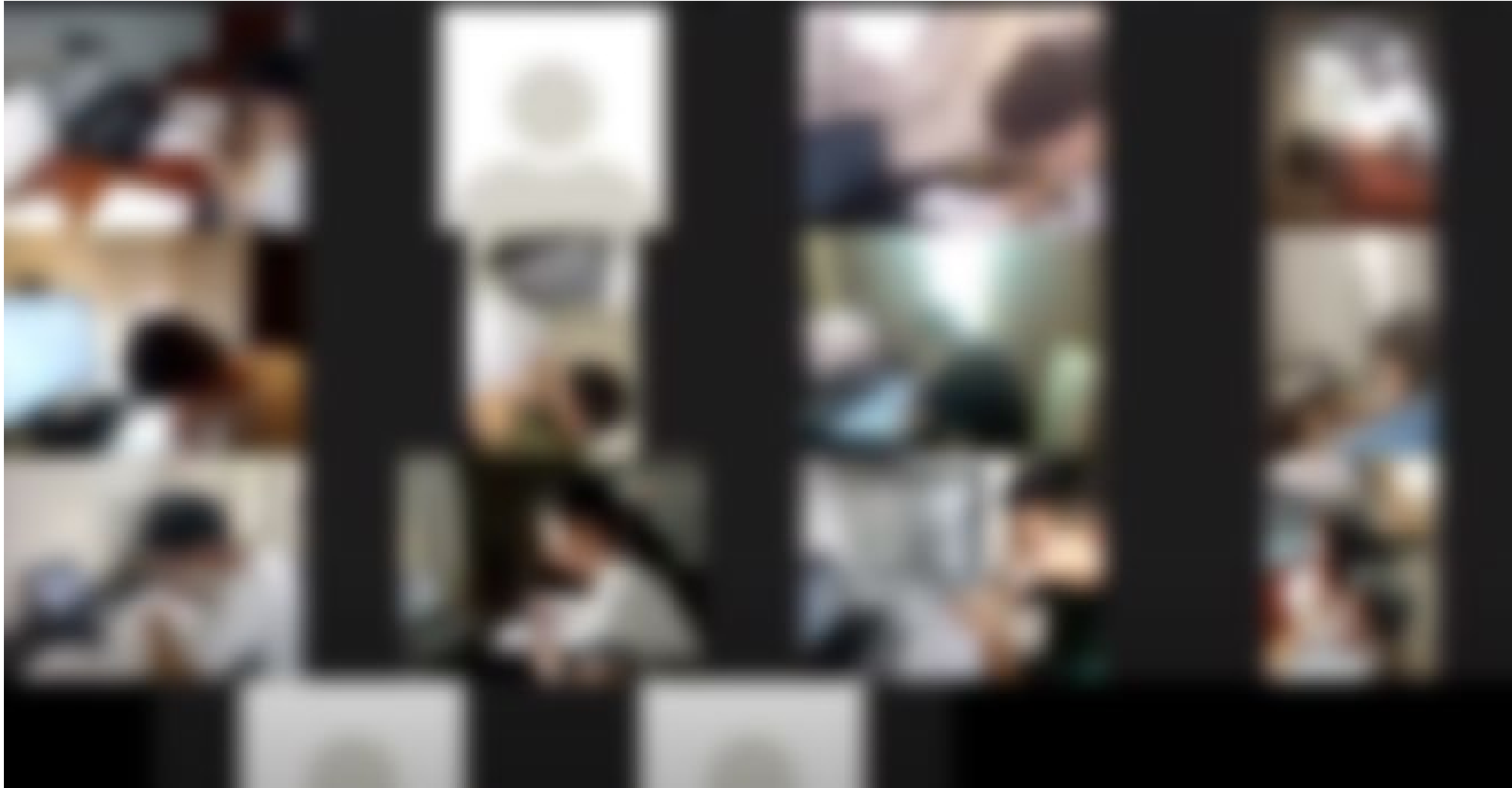
- 受験生の入室、
一人ずつ、本人・環境の確認
- 試験開始、問題提示
- 試験終了、答案回収



2チャンネルの
オンライン会議
システム
(2カメラ) :
PC、スマホ

受験生側のセットアップ

監督者からみたスマホ映像



監督者からみたPCカメラ映像



まとめ

- 試験のオンライン化をきっかけに、入試のプロセス全体のデジタル化が進んだ。受付業務等の省力化につながった。
- 筆記試験の完全オンライン化は、オンライン実施のリスクと専攻としての監督の負担が大きい（と思った）。2年目には、会場とオンラインのハイブリッド化が行われた。
- 入試の運営のオンライン化にあたっては、裏方としての幹事団の負担は増大した。
- 筆記試験は、それを行う限り、コロナ後においても、特に海外受験の便宜としてオンラインが継続される可能性はある。

ご清聴ありがとうございました。